

書燈

2021年 No. 55



「書くこと」の耐えられない重さ

久我 和巳
行政政策学類

古代ギリシアの都アテナイ郊外、イソリス川のほとり、プラタナスの木陰で、ソクラテスは「恋」の成就をめぐって、旧知の友、パイドロスと対話している。川のせせらぎと蝉の声だけが二人を包む。

対話の締めくくりに、ソクラテスは問う。人を説得するためにものを書くことの正当性は、どのように保証されるのか。例えば、文字を発明したテウトが、その技術を、民衆の知恵を増進するために積極的に広めるよう提言したとき、エジプトを統治する神、タモスはこう論じたのではないか。文字は人の内側から呼び起こすという記憶の訓練の妨げになる、文字によって人々はうわべだけの知識に満足して博識家を気取り、真の知恵にたどり着くことができなくなる。さらに、ソクラテスは付け加える。書かれたことばはいかなる質問に対しても尊大に沈黙するばかりだ、ひとたび書かれれば、それは一人歩きを始め、誤解されようと、罵倒されようと、書き手に依存できない限りは、それ自体、無力な存在である。小さな植木鉢に蒔かれた種に十分な収穫を期待できないように、生命と魂を宿した話しことばに比べれば、書きことばはその影に過ぎず、真の知にたどり着くことなどできない。…ソクラテス、あなたは、なんてきびしいんだ。

記録の技術が進歩しても、もしも作者が不在なら、書きことばは誤用や改竄の可能性を排除できないまま、無防備にたたずんでいる。今日のネット上では、誤解やある種の悪意を含んだことばの断片が、書き手という後ろ盾を失ったまま流通し、時に暴走を企てる。恣意的に抜き出され、切り刻まれた書きことばは、書き手の個性や

本来の全容から隔てられ、孤立した迷い人としてさまようしかないようにも見える。

ソクラテスの対話は、プラトンによって『パイドロス』の中に書き込まれ、私たちの現前にある。その見解は『国家』や『第七書簡』にも繰り返されているから、書きことばへの懐疑は、ソクラテスというよりもプラトン自身の主張に近いのかもしれない。同時に、プラトンはそれを書くことによって、その見解が時間と空間を超えて、私たちの思索の対象となり得ることを示してしまった。

思えば、イエス・キリストの使徒たちがそのことばを書き留めておかなかつたら、私たちはイエスの箴言に接することはできなかつたかもしれない。『平家物語』の語り本の編纂者がいなければ、琵琶法師たちの哀切に満ちた調べに思いを馳せることはできなかつたかもしれない。明治の寄席に速記者たちがいなければ、落語中興の祖、三遊亭圓朝の口吻と観客の興奮を想像することはできなかつたかもしれない。書かれる機会を失った話しことばの多くは、口承伝承というしなやかだが、不安定な紐帯に頼れなければ、特定の時間と空間に幽閉されている。図書館には、断絶を免れたことばの群れが書きことばとなって、静かに私たちとの出会いを待っている。

末尾になりますが、ソクラテスとプラトンへ伝えておきます。私の解釈には、誤解や曲解が含まれているかもしれません。だから、「書くこと」の耐えられない重さを引き受けることを自戒しつつ、今、この文章を書いています。



この本に出会ったのは高校生の時であり、少々傷んでいるが今も手元にある。奥付を見ると、昭和49年(1974年)が初版で、これは昭和57年(1982年)の13版である。2010年に改版が出されており、改版より40数ページ少ない。当時、大学の農学系学部を受験することを考えていたら、国語の先生から薦められた。40年経っており、高校生の私が何を読み取り、どのように考えたかを正確に思い出すのは困難であるが、ずっとこの本が農学研究に携わった原点になっているという気がしていた。たぶん、大学入試の小論文はこの本の内容から記述したと思う。

当時を思い出すため、再度読んでみる。「序章 自然観の断絶」、「一 治水の革命」、「二 不足する水資源」、「三 水の収奪」、「四 現代の水思想」、「五 原点としての明治三十年」、「六 緑の破壊者」、「七 失われゆく森林資源」、「八 土壌と文明」、「九 農業の近代化がもたらしたもの」、「終章 新しい道を求めて」と読み進めていくと、ああ、富山学とも言われ、水と緑と土は同義語であるという思想を記したものであったなと、思い出してきた。「おわりに」を読むと、第一次オイルショック直後の1973年12月に書かれており、本書が明治後期から高度経済成長期の水や森林や農業に対する政策や考え方に警鐘を鳴らしているものであることがわかる。明治三十年に治水が、特に洪水対策のための河川の堤防が、低水工事から高水工事へ転換された。これが、水を川に閉じ込めて土地と分断される契機になったとしている。著者は、この高水工事が洪水を助長していると言っているが、確かに現在においても大規模な水害が起きており、否定はできない。高校生の私は、天井川を越えて自転車通学していたので、高水工事は実感できたと思う。さらに、都市のコンクリートとアスファルト舗装が、洪水を助長しているとのことには納得していたであろう。ただし、熊本に住んだことがあり、加藤清正の白川治水の思想や技術はすごいと思うが、水害を特定地域(熊

本の城下町の外縁部)で受け止める低水工事が、今外縁部で生活している人々に受け入れられるとは思えない。著者の言う(現代日本にはない)都市計画が重要であるが、その実行となると、ダム建設のような住民合意が必要であろう。

そういえば、ダムは堆砂によって将来的には使えなくなることを知ったのもこの本である。ただし、現在ではいくつかの対策がとられており、本書の想定よりはかなり長持ちするようである。また、アスワン・ハイ・ダムの功罪について知ったのも本書である。「ナイルの賜物」を失ったことと、洪水防止、利水による経済発展から、ものごとは多面的に評価する必要があるんだなあ、と思ったと思う。さらに、文明と農業生産力の関係についても本書で知った事柄である。高校生の自分は、富山学の本質は理解できていなかったと思われるが、関連する事項を統合的に考えること、物事を多面的に見ること、持続性が重要であるということなど、部分的にはその後の考え方に影響を受けていると思う。

なお、単なる言葉の抜き出しではあるが、「人間たちに対して、自然は復讐することを思いとどまるだろうか」、「今日、自然環境の破壊はもはや人間の耐える限界を超えている」、「もとをただせばこの社会が、自然に対して行ってきた破壊の大事業の最後の仕上げ」などは、最近の気象災害の多発や2011年の原発事故を想起させられる。富山学がこれらへの警鐘であったとすれば、活かせなかったのは残念である。ただし、本書には現在(当時)の状況を踏まえて、治水、森林管理、農業のあり方をどのように方向転換すればよいかは明確にされていない。皆さんは、本書を手にとって、世の中の事象を統合的に、多面的にみる視点をもっていただき、今後水と緑と土とどのように付き合っていけば良いか、日本の文明がどのような方向に進んでいけば良いかを考えていただきたい。



水と緑と土：
伝統を捨てた
社会の行方

富山和子著
(中公新書；348)
中央公論社，1974.1

土曜開館時間短縮について

土曜日の閉館時間はこれまでは21時でしたが、2021年10月から17時閉館に変更となりました。

図書館では、土曜日夜間の利用者数が減少しており、また、夜間開館のためのスタッフ確保の問題や、光熱水費の節約などの財政面での課題を抱えています。これらの課題に対応するための方策の一つとして、開館時間の見直しを提起し、附属図書館運営委員会において議論を進めてきました。委員会では、ここ数年の利用状況を踏まえつつ、特に学生の皆さんの学修活動への影響については慎重に検討を重ねました。利用者側と運営側のそれぞれの視点に立って議論を行った結果、2020年10月から1年の試行期間を経て、2021年10月から正式に17時

を閉館とすることとしました。

今回の変更で開館時間が短くなることにより、利用者の皆様にはご不便をおかけいたします。開館時間については、利用状況やニーズを踏まえ、今後も継続して検討することとしています。引き続き教育研究活動の支援充実に向けて取り組んで参りますので、ご理解くださるようお願いいたします。

また、図書館では、利用者サービスの向上を図るため、非来館型の学修・研究環境の整備を進めています。来館しなくても図書館資料を使用することができる電子ブックの所蔵も増えてきていますので、ぜひご利用ください。

福島大学校友会による図書資料充実への支援

「福島大学校友会」とは、学生・保護者・卒業生・退職者などで構成され、福島大学の学生に関する様々な支援事業を行っている団体です。このたび、校友会の「学生教育支援環境等整備事業」として、以下のとおり図書資料購入をご支援いただきました。

- 電子ブック…本学の学生・教職員全体が学内LANを通じて閲覧できる図書を充実させ、図書館に来館することなく図書資料を利用できる環境の整備
- 図書資料…食農学類設置に伴う新たな学問分野を含む参考図書などを整備

これらの図書資料は、電子・冊子の形態を問わず、全てOPAC(<https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/opac/>)から検索できます。ぜひご活用ください。



2021年度の電子資料入替と文献取り寄せ料の負担軽減措置について

本学で契約している電子資料について、2020年度に見直しを行い、本年度から大幅な電子ジャーナルとデータベースの入れ替えを行いました。これにより、新たにWeb of Science やProQuest Central などの国際的な文献を扱う電子資料が導入されました(2022年度からは、Web of Scienceに代わってScopusが利用可能となります)。

その一方で、本学における研究教育分野が多岐にわたり、すべての分野に必要な電子資料を網羅的に整備することは財政的に難しい状況から、研究における文献入手の支援として、本学教員の他機関からの文献取り寄せ料の全学経費化(大学で費用を負担)を2021年4月から実施しています。

今後も、利用状況や皆様からのご意見などを伺いながら、本学で必要な研究教育の環境整備を進めていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

2月13日の地震被害について

2021年2月13日(土)23時8分に東日本大震災の余震とみられる地震があり、福島市では震度6弱の揺れを観測しました。この地震により図書館では、約15,000点の資料落下や天井や壁に亀裂が入り破片が落下するなどの被害を受け、翌週の2月15日(月)～19日(金)を休館として、館内の安全確認や落下資料の復旧作業等を行いました。また、建物や設備などの損壊についても工事が進められており、地震により不具合の生じた書庫内の電動集密書架については、今年度中の改修が予定されています。



資料の落下



壁に亀裂が入り、破片が落下

東日本大震災関連のイベント等報告

1 東日本大震災10年被災地図書館震災アーカイブ企画展「10万冊が語りかける 東日本大震災～「震災記録を図書館に」キャンペーン～」〈2021年2月27日(土)～28日(日)〉

この企画展は、図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」に参加する岩手・宮城・福島の各県の図書館及び防災科学技術研究所からなる8図書館が主催となり、各図書館が構築してきた震災アーカイブをあらためて周知し、震災関連資料の寄贈や利活用の推進を目的として、せんだいメディアテークにおいて開催されました。会場では、各館の紹介ポスターや実物大の書棚の写真等を展示したほか、震災時と現在の図書館の様子を写したスライドショーの上映なども行いました。



2 東日本大震災10年被災地図書館震災アーカイブ企画展 巡回展「被災地図書館における震災資料収集の取り組み」〈2021年3月9日(火)～4月30日(金)〉

本館1Fロビーにおいて、上記1の巡回展で使用された各図書館の紹介と書棚の写真の一部を再現した展示を開催しました。この展示では、当館における2011年以降の震災関連資料収集に関わる活動や他機関の取り組みを知っていただき、広く震災資料の活用につなげると共に、震災関連資料の散逸を少しでも防ぐためにあらためて資料提供を呼びかけました。

図書館では、引き続き東日本大震災に関わる資料の収集を行っておりますので、お手元に震災関連の資料をお持ちの方はご提供いただけますようお願いいたします。



3 資料展示コーナー「東日本大震災 福島大学の記憶」第3回展示 〈2021年9月24日(金)～〉

本館1階資料展示コーナーにおいて、「東日本大震災 福島大学の記憶」シリーズの第3弾として、9月24日から「OECD東北スクールと若者たちの未来」の展示を開始しました。

この展示では、経済協力開発機構(OECD)と連携した東日本大震災からの教育復興プロジェクトである「OECD東北スクール」のこれまでの活動内容を紹介し、作成された報告書などのほか、2014年8月に開催されたフランス・パリでのイベントで実際に使用されたメッセージやTシャツなどの品々を展示しています。



新型コロナウイルス感染症への対応について

図書館では、学内外の状況に合わせて、2020年3月10日以降、以下のような対応を行っています。引き続きご不便をおかけすることもあります。感染症対策として、他の利用者と適度な距離を保つことや館内でのマスク着用、手指消毒の励行などに、ご協力をお願いいたします。

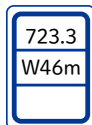
| 2022年1月末日までの対応（■は通常利用に戻っているもの） | | |
|--------------------------------|---|---|
| 1. 開館状況 | 臨時休館 | 2020/4/22（水）～5/17（日） |
| | 時間短縮開館 | 2020/5/18（月）～5/29（金）平日10：00～15：00 6/1（月）～7/10（金）平日9：00～17：00 7/11（土）～8/7（金）平日9：00～17：00、土曜10：00～17：00 8/8（土）～9/30（水）平日9：00～17：00、土曜11：00～17：00 10/1（木）～ 平日9：00～21：45、土曜10：00～17：00 2021/7/25（日）～2022/1/28（金）、2/4（金）～現在 授業期間の日曜、試験期間の祝日の開館を再開（10：00～17：00） 2022/1/31（月）～2/3（木）平日9：00～19：45 |
| | 参考： 通常開館 | ～2020/4/21（火） 【授業期間】平日9：00～21：45、土曜10：00～21：00、日祝10：00～17：00 ※2021年10月からは土曜の開館時間を10：00～17：00に正式変更 【休業期間】平日9：00～17：00、土日祝11：00～17：00 |
| 2. 開館時の施設・設備の利用制限 | 閲覧席 | 2020/3/31（火）～4/21（火）通常（664席）の5～6割程度 4/22（水）～5/29（金）利用休止 6/1（月）～9/30（水）サービスの状況に合わせ1割未満～3割程度 10/1（木）～2021/12/5（日）6割弱程度 2021/12/6（月）～現在 通常（674席）の7割以上の座席が利用可 |
| | 共用PC ※IPCパソコンは2022年2月までの利用予定 | 2020/4/22（水）～8/7（金）利用休止 8/8（土）～9/30（水）学習用PCは66台中25台が利用可 蔵書検索専用PCは6台全て利用可（～現在） 10/1（木）～11/12（木）学習用PC42台利用可 11/13（金）～現在 学習用PC54台利用可 |
| | その他 | ・学習個室（スタディールーム） 2020/3/10（火）～2021/12/5（日）利用休止 12/6（月）～限定的に再開 ・館内での会話及びグループ学習 4/10（金）～9/30（水）、2021/1/5（火）～12/5（日）2人以上での利用、及び館内での利用者同士での会話禁止 10/1（木）～12/25（金）、2021/12/6（月）～現在 館内の一部での会話やグループ学習を再開 |
| 3. 入館対象 | 学内 | 2020/5/18（月）～5/29（金）、8/24（月）～8/29（土） 本学教員、修士・博士論文研究または卒業研究を行う本学学生のみ 6/1（月）～8/22（土）、8/31（月）～12/25（金）学内者 2021/1/5（火）～1/27（水）4年生以上のみ 1/28（木）～現在 学内者 |
| | 学外者 | 2020/3/27（金）～4/9（木）利用制限 4/10（金）～2021/3/31（水）利用休止 2021/4/1（木）～現在 事前申込による資料の貸出・代行コピー及び図書の返却を開始 ※2022/1/31（月）～2/3（木）は一時的に休止 |
| 4. サービス | 閲覧 | 2020/4/22（水）～6/30（火）休止 |
| | 来館貸出 | 2020/4/22（水）～5/17（日）休止 5/18（月）～2021/3/31（水） 貸出希望図書の事前申込（準備完了後に来館して受渡）を実施【申込受付：374件（453冊）】 |
| | 郵送貸出 〈遠隔授業の期間に実施〉 | 1回目：2020/6/12（金）～8/7（金）本学学生対象に実施（1回につき1人2冊まで（最大2回・4冊まで）。往路の送料のみ大学負担）【申込受付：39件（73冊）】 2回目：2021/1/5（火）～1/29（金）本学学生対象に実施（一人1日4冊まで（最大5回・20冊まで）。往路の送料のみ大学負担）【申込受付：83件（109冊）】 |
| | 複写 | 2020/4/22（水）～5/17（日）休止 5/18（月）～2021/3/31（水） 代行コピーを実施【申込受付：63件（186文献）】 7/1（水）～現在 通常のセルフコピーを再開 |
| | ILL（他機関からの本の借受・文献取寄） | 2020/4/22（水）～5/17（日）休止 5/18（月）～6/30（火） 教員のみ 7/1（水）～現在 通常運用 |
| | レファレンス | 2020/4/22（水）～5/17（日）休止 5/18（月）～5/29（金）来館によるレファレンスは不可 6/1（月）～現在 通常運用（メール推奨） |
| | 電子資料の提供 | ・学外アクセス可能な電子資料の利用方法案内 ・出版社等からのご厚意による無償提供や拡大利用の案内 |
| 5. 館内の感染防止対策（1.～4.以外） | <ul style="list-style-type: none"> ・手指消毒用アルコールの設置 ・平日毎朝の共用部分等のアルコール消毒 ・窓口に飛沫防止のビニール設置 ・全館の換気（事務室を含む） ・事前申込の図書や返却資料等の除菌 ・ラーニングコモンズ1及び飲食エリアの机の上にアクリル板を設置 | |

学内教員著作寄贈図書



モナ・リザの教科書

渡邊晃一著
日本文教出版, 2021.5



資料ID: 121011238

ルーヴル美術館所蔵の《モナ・リザ》は、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた数少ないタブローです。世界中で最も有名な絵画とされる一方で、様々な謎が秘められており、これまでも多くの研究者を魅了してきました。

本書は、レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500年を記念

して《モナ・リザ》の最新の知見(芸術諸学の言説や解釈、作品の素材、技法等)を解説した「研究書」と同時に絵画理論と制作技法を学ぶ「教科書」の体裁をとっています。

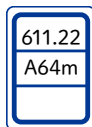
美術の理論と制作が不可分な背景を語る本著は、筆者が福島大学をはじめ、福島県立医科大学、宇都宮大学や岩手大学などの講義で作成した教本、エコール・デ・ボザール(パリ)の客員教授として滞在した際に収集したレオナルド研究、映画『万能鑑定士Q』や日本テレビの『ルーヴル美術館特別番組』などを監修した際の資料、さらには東京の銀座や六本木のギャラリーで発表した作品等を元に執筆しました。

大学ではこのテキストを用いて講義していますが、美術を深く学びたい方々にも一読していただければ幸甚に存じます。(人間発達文化学類/渡邊 晃一)



村の日本近代史

荒木田岳著
筑摩書房, 2020.11



資料ID: 120025338

筆者は、行政政策学類で「地方行政論」という科目を担当している。地方行政と聞けば、事務的な内容を想像するだろう。赴任したころの自分もそうだった。

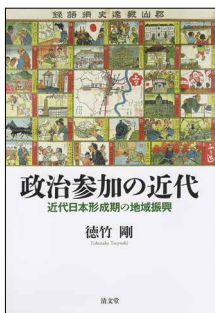
しかし、地方行政の「キモ」は、いかに効率よく地方を

統治するか、ということにあるから、本書では、村の支配を題材に、この問題を描こうと考えたのである。

「支配の形」は「村の形(外見も中身も)」に反映される。したがって、村の形の変化をみれば、支配のあり方の変化がわかるということのだが、その先は、手に取ってご自身の目でたしかめていただきたい。ちょうど先日、生協売店の片隅に、いくつも並んでいたのも、ぜひ立ち読みしてほしい。きっと買うことになるはずなので…。(注:生協にはお許しを得ずに書いてます)

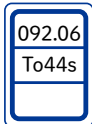
そして、2022年度もこのテキストを使って講義をする予定なので、もし興味を持っていただけたなら、授業を覗いてほしい。きっと新しい発見がある、はず。

(行政政策学類/荒木田 岳)



政治参加の近代 近代日本形成期の 地域振興

徳竹剛著
清文堂出版, 2021.3



資料ID: 120043957

本書は、明治前半期における福島県郡山の地域振興について検討したものである。それを通じて、日本政治史における民衆の政治参加について論じた。

近代における民衆の政治参加は、西洋の近代的政治文化が自由民権運動を通じて広く浸透し、やがて帝国議会

の開設に至ると考えるのが通説的な理解である。

一方で、近世史研究においては、村役人や経済的富裕層が政治的・行政的な実務経験や活発な経済活動を通じて政策立案能力を高め、訴願や献策を通じて政治参加を果たしていたと指摘されている。民衆による政治参加は、議会の開設によって実現したのではなく、実はそれ以前から見られていたというのである。

こうした近世史研究の成果をふまえたとき、安積開墾等の殖産興業政策に参加し、福島県庁移転運動に奔走し、岩越鉄道敷設運動に尽力した一方で、自由民権運動には見向きもしなかった郡山の地域有力者たちの政治参加は、日本政治史において何を意味しているのか。そのことを問うたのが本書である。

(行政政策学類/徳竹 剛)

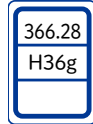
著作資料のご寄贈のお願い

先生方からご寄贈いただいた資料は、新館2Fの「福島大学教員著作物コーナー」等に配架され、本学の貴重な資料として永く保存し、広く学生や地域の方にもご利用いただいております。著作物のご寄贈について、ご協力をお願いいたします。



現場からみる障害者の雇用と就労 法と実務をつなぐ

長谷川珠子 [ほか] 著
弘文堂, 2021.4



資料ID: 121000413

障害者が働くことを支援するために、「雇用」と「福祉（就労）」の両面から法制度が整備されています。しかし、「法と実務の間に乖離が生じているのではないか」、これが本研究の出発点でした。そこで、雇用と福祉の境界線に位置する特例子会社、就労継続支援A型、就労継続

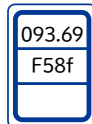
支援B型に注目し、実態把握のためのアンケートとインタビューを行いました。その内容をまとめた2章を受けて、3章でモデル分析を行い、特例・A型・B型を4類型に分類したうえで、それぞれが直面する課題等を整理しました。これらを踏まえ4章では、「法」と「ネットワーク」が障害者の雇用や就労に関して与える影響や役割について検討しています。最後に5章として、本研究により得られた知見と法学者である執筆者らの知見をもとに、障害者雇用・就労政策のあり方について検討を加え、具体的な法制度上の提言を行いました。厚生労働省ではまさにこのテーマが検討されているところであり、審議会等の委員として実際の政策につなげています。

(行政政策学類／長谷川 珠子)



ふくしま復興 農と暮らしの復権

藤川賢, 石井秀樹編著
東信堂, 2021.3



資料ID: 121000425

本書は環境計画、環境社会学、環境経済学、環境法学の研究者が、原子力災害下にある福島復興について批判的検証を加えつつ、被災農家との対話を踏まえ、福島の農と暮らしの復興が如何にあるべきかを論じたものである。

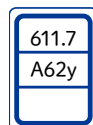
復興には膨大な公的資金が投じられた一方、復興の実感が伴わない。それは復興の枠組みが、除染や基盤整備などの環境施策、営農再開支援事業や風評対策などの産業施策から構成され、「いきがい農業」などは、個人の自助努力による解決に委ねられており、農と暮らしの復興に従事し、その主役たる人間の福祉を高める施策がないことを明らかにした。阿武隈山地に根差した農と暮らしで失われたものは何なのか、復興施策で何が取り戻せ、何を取り戻すことが困難なのかを学際的に論じつつ、復興政策を捉え直しながら、岐路に立たされた福島から新しい農と暮らしのあり方を模索することの意義を論じた。

(食農学類／石井 秀樹)



有機農業でつながり、 地域に寄り添って暮らす 岐阜県白川町ゆうきハート ネットの歩み

荒井聡[ほか] 編著
筑波書房, 2021.6



資料ID: 121011277

「増田レポート」(2014)において、「消滅可能性」が県ナンバーワンの自治体とされた岐阜県加茂郡白川町への有機農業による青年農業者の移住プロセスを解明した研究書である。名古屋市栄で有機農産物を扱うオアシス

21朝市村の開設(2002)、有機農業推進法の施行(2006)などの追い風をうけ、地元生産者、都市消費者、移住者、行政などがうまく連携を図ることで、白川町への有機農業による移住が進んだ。地元で長年培われてきた「結の精神」が、これら関係者の間で有機的に共鳴しあって有機農業の生産と移住の体制が確立してきた。有機農業NPO法人による4つの活動(1.生産・経営面での技術向上、2.交流による消費者の農業理解の深まり、3.新規就農者の参入促進と町内定住支援、4.有機農産物の販売促進)が、有機農業の里づくりの柱である。コロナ禍、田園回帰志向が強まり、有機農業による移住就農の希望者が多くなっている。持続可能な地域社会作りを考えるにあたって参考にしていただきたい書である。

(食農学類／荒井 聡)

カウンターの内側から

行政政策学類4年 浅野 幸久

大学に入ったら、図書館でアルバイトをしてみたいと思ったのは、高校生のときでした。図書館の落ち着いた雰囲気と多くのおもしろそうな図書に出会えることから図書館に引きつけられました。そして、私は、大学2年生のときに運よく附属図書館のアルバイトにつき、カウンターに座ることができました。

平日の夜間や土日のカウンター担当の仕事は、図書の貸出・返却、書庫の出納、図書・施設に関する問い合わせへの対応、利用状況の確認、開館・閉館作業など様々です。こうした仕事のなかで、多くのことに気づかされました。例えば、開架にある図書は、ほんの一部で、書庫のなかにはその数倍もの図書が収められていることがあります。書庫のなかには専門書、高等商業学校・師範学校時代の図書、考古学資料、今野源八郎先生(交通経済学)の蔵書、外国語の図書など多くのおもしろそうな図書が保管されています。

また、図書館の職員さんが文献の収集の相談(レファレンス)にのってくださるということもあります。どんな図



書・資料が欲しいのか相談をすることで、アドバイスをくださったり、他の図書館、場合によっては外国の図書館などにも問い合わせをしてもらえたりします。レポートや卒業論文を書く際には相談をしてみてください。

最後に、ぜひ、書棚などをみて偶然、気になった図書をとにかく手にとって読んでみてください。偶然、出会ったその図書は、とてもおもしろいものかもしれません。そして、図書との偶然の出会いを大切にいただければ幸いです。

図書館に関する何か困ったことや相談したいことがありましたら、遠慮なく、カウンターにお問い合わせください。全力でサポートいたします。

福島大学附属図書館報

書 燈

発行日/2022年1月

発行元/福島大学附属図書館
〒960-1293 福島県福島市金谷川1番地
tel.024-548-8087

<https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/>



福島大学附属図書館報「書燈」第55号 目次

| | |
|----------------------------|---------------|
| ● 巻頭言 「書くこと」の耐えられない重さ | 久我 和巳 …………… 1 |
| ● 思い出の一冊 | 河野 恵伸 …………… 2 |
| ● 土曜開館時間短縮について | 附属図書館 …………… 3 |
| ● 福島大学校友会による図書資料充実への支援 | 附属図書館 …………… 3 |
| ● 電子資料入替と文献取寄料の負担軽減措置について | 附属図書館 …………… 3 |
| ● 2月13日の地震被害について | 附属図書館 …………… 4 |
| ● 東日本大震災関連のイベント等報告 | 附属図書館 …………… 4 |
| ● 新型コロナウイルス感染症への対応について | 附属図書館 …………… 5 |
| ● 学内教員著作寄贈図書の紹介 | |
| 『モナ・リザの教科書』 | 渡邊 晃一 …………… 6 |
| 『村の日本近代史』 | 荒木田 岳 …………… 6 |
| 『政治参加の近代：近代日本形成期の地域振興』 | 徳竹 剛 …………… 6 |
| 『現場からみる障害者の雇用と就労：法と実務をつなぐ』 | 長谷川珠子 …………… 7 |
| 『ふくしま復興農と暮らしの復権』 | 石井 秀樹 …………… 7 |
| 『有機農業でつながり、地域に寄り添って暮らす』 | 荒井 聡 …………… 7 |
| ● カウンターの内側から | 浅野 幸久 …………… 8 |

編集
後記

賑やかだったラーニングコモンズが見られなくなり早2年が経とうとしています。今もなお利用の制限があり皆様にはご不便をおかけしておりますが、2021年度は念願だった自販機の設置やラーニングコモンズ1を中心とする本館1階の利活用についての検討が進められました。来年度はコロナ対策を継続しながらも、状況に合わせて少しずつ館内の利用環境を整えていければと思います。(A)